

根室市グランドデザイン策定までの動き



●ねむろ未来塾



市民・事業者・市職員が中心。

将来人口や公共施設等のあり方を踏まえ、意見交換やまち歩き等を行い、将来の根室市の方向性を共有する。

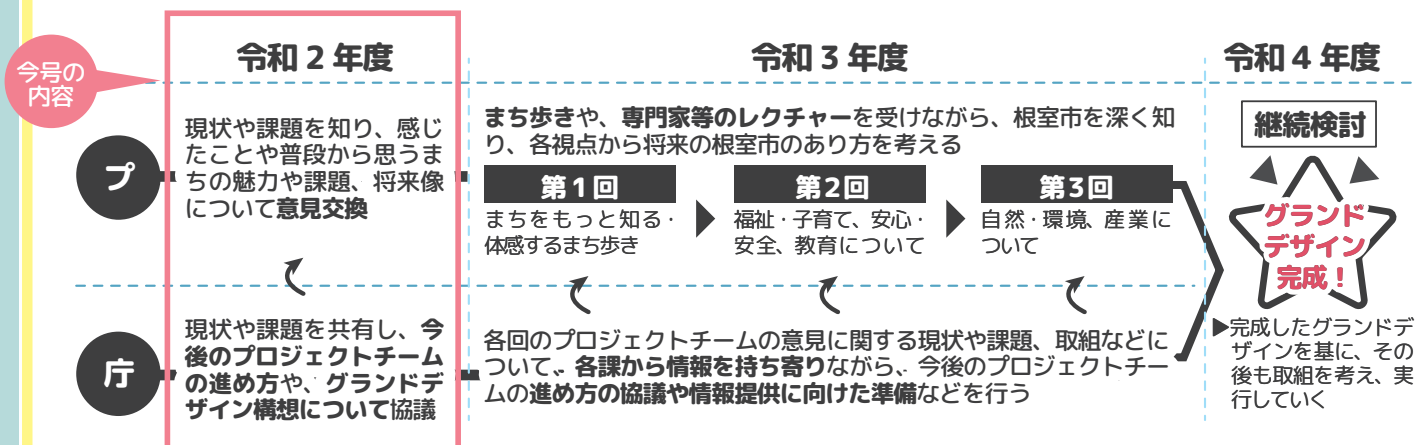
市職員が中心。

改めてまちを知り、様々な課題に対応しながら、将来を見据えた施策事業を展開する。

根室市グランドデザインを検討するにあたり、「ねむろ未来塾」として、プロジェクトチーム、市内チームを設置しました。プロジェクトチームには幅広い年齢層の方、職業や出身地も多様な方が参加しており、市内チームも所属が異なる若い世代が多く参加しています。これからもワークショップは随時開催して参りますので、ぜひご参加ください。

●策定までの流れ

根室市グランドデザインは令和4年度末の策定を目指しています。策定に向け、今年度はそれぞれのチームで役割分担をしながら活動を行い、根室市の将来像について検討していきます。



— みんなでつくる 根室市グランドデザイン —

ねむろ未来塾通信

発行者：根室市総合政策部



令和3年5月発行

根室市の未来を創るまちづくりプロジェクト「ねむろ未来塾」が始動しました！



今号で紹介するねむろ未来塾のワークショップはこちら！

第1回 ねむろ未来塾 市内チーム ワークショップ



【開催日時】
2021年3月2日（火）
13:30～15:30

【参加人数】
市役所若手職員 21名

第2回 ねむろ未来塾 プロジェクトチーム ワークショップ



【開催日時】
2021年3月29日（月）
19:00～20:30

【参加人数】
市民 14名
市役所若手職員 17名

根室市はSDGsの取組に貢献していきます。



SDGs とはすべての人々にとってより良い未来を築くために設定された、持続可能な17の目標のことです。根室市もこれからの未来のために、貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、グローバルな諸課題の解決を目指していきます。「根室市グランドデザイン」の策定においても、このSDGsを踏まえながら考えていきます。

SDGsに関する取組については、右記の二次元コードからご覧ください。



お問い合わせ▶

根室市総合政策部 総合政策室

☎0153-23-6111（内線 2254）

（アンダーバー）

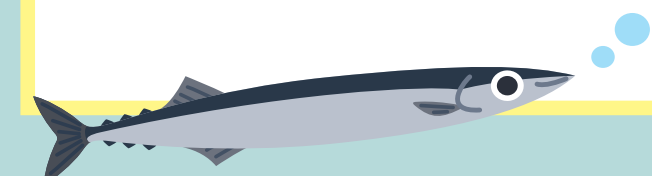
✉sog_seisaku@city.nemuro.hokkaido.jp

市民の皆さんと「根室市グランドデザイン」を一緒に考え策定します。

根室市の人口は、24年後の2045年に約半分になってしまうことが予想されています。人口減少などの理由によって、「生活インフラの維持」、「子ども達の教育環境」、「公共施設の維持管理・建て替え」などに関する課題が多数出てくるとも予想されます。

そのため、これからも根室市がみなさんにとって住みやすいまちであり続けるために、根室市全体の指針となる「根室市グランドデザイン」を策定します。

また、策定に向けては、市民の皆さんの参加による多様な意見が必要不可欠です。そこで、皆さんと一緒に根室市の将来について考えていく「ねむろ未来塾」プロジェクトを始動しました。



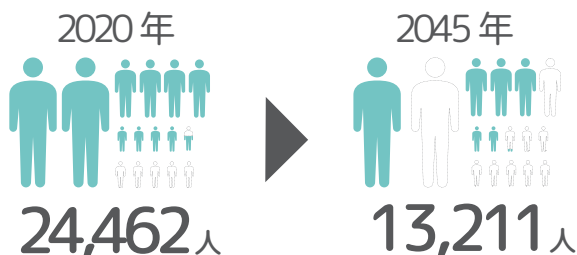
より詳しい内容については、右記の二次元コードからご覧ください。



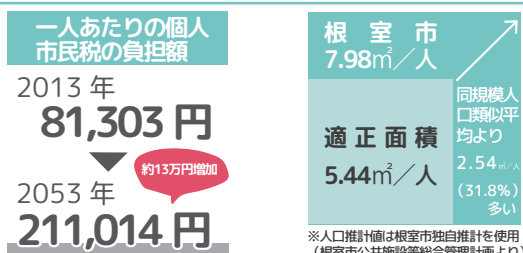
ワークショップでは、将来の根室市において予想される様々な課題について共有し、将来の根室市がどうあるべきかを考えました。

予想される課題

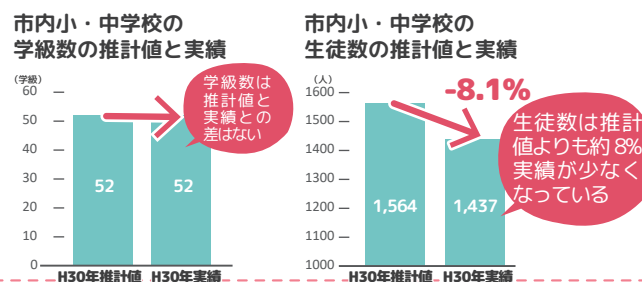
2045年には、**根室市内の人口が現在の約半分になる**



人口減少や少子高齢化などにより、**インフラ・医療福祉・行政サービス等の維持が困難になる**



生徒数の減少を踏まえた、**小中学校の適正配置・教育環境の検討**



公共施設等の老朽化による**建て替え時期の訪れや環境への配慮**

- 市民が安心・安全で持続的に住み続けられるまちづくりにつながるよう検討する必要がある。
- 市民が暮らし地域などに残すべき施設などを考える取捨選択が必要になる。
- 公共施設に関わるコストの圧縮や長寿命化に向けた取組が求められる。
- 省エネルギーや再生可能エネルギーの活用など、環境に配慮した運営や建て替えが求められる。
- 防災、減災の視点を含めた検討が必要になる。

庁

第1回 めむろ未来塾 庁内チーム ワークショップの開催結果

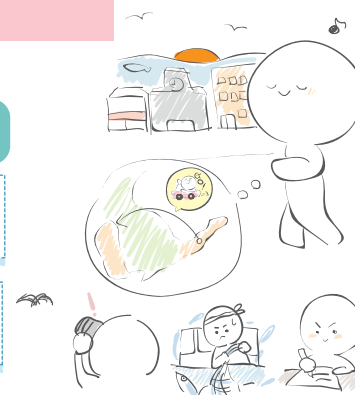
現状・課題について資料をもとに確認しながら、2045年の将来像についてグループごとに話し合いました。

現状・課題に対する意見や感想

- 人口減少の課題に対しての意見
人口減少が思った以上に課題だった。どの公共施設を建て替えしたり維持したりするかも今後さらなる課題になりそうだ。など
- 根室市の魅力に対しての感想
自分も知らない根室市の魅力がたくさんあった。魅力を磨き、もっと自分たちで発信していけるようにしていきたい。など

庁内チームが考えた2045年の将来像

- 静かで暮らしやすいコンパクトなまち
- 根室愛をはぐくむ教育が行われているまち
- 子どもや子育て世代が住み続けるまち
- 今ある公共施設の機能などが維持・継続されているまち



プ

第2回 めむろ未来塾 プロジェクトチーム ワークショップの開催結果

4つのテーマを切り口に語り、地域の資源を活かした2045年の将来像について話し合いました。

テーマ	テーマ別の意見	テーマから考えた課題	プロジェクトチームが考えた2045年の将来像
根室人の気質 	・高齢者の方が元気 ・素直・ピュア⇔シャイ・消極的 ・コミュニティ(仲間意識)が強い⇔閉鎖的 ・地元が好き⇔そうではない人もいる ・みんながお互いのことを知っている ・ゆったりしている ・優しい、面白い	・初めは根室人のコミュニティに入りにくい ・一度仲良くなってしまうと、繋がりが強く仲間を大切にする ・地元で自信がある大人が多い⇔子ども達や一部の大人は地元で自信が持てない	・人と人の繋がりを変わらず強く持っているまち ・どんな大人も子どもも地元で自信を持っているまち ・地域の良さを大人が子どもや若い人に伝えられ、子ども達が一度市外に出て、必ず戻って来てくれるまち
根室のディープスポット 	・市内のどこからでも見える花火 ・海が見える学校の教室 ・樹氷が見られる明郷の湿原 ・ミズナラ風衝林 ・市内各地から見る朝日、夕日、夜空 ・三里浜は花咲線の撮影スポット ・根室市そのもの など	・春国岱に地元の人があまり行かない。PR不足。また、野外学習などに使ってほしいなどの働きかけがあまりされていない。 ・ネイチャーセンターの遊歩道にゴミが落ちている。観光のマナーを啓発したい ・身近にある資源を大切にする、というような視点を持ってもらいたい	・市民が自然環境保全を行っており、まちを盛り上げる「当事者」になっているまち ・市民自ら根室市の魅力を知っているまち
根室自慢 	・食べ物(海産物、鹿肉) ・気候(夏は涼しく冬は寒すぎない寒さ) ・春国岱から見える景色 ・金刀比羅神社例大祭の歴史や文化 ・食べ物、環境などでNo.1のものが多いなど	・根室市の子どもは、根室市の様々なところが世界的にすごいことを知らないことが多い。大人も、「なぜすごいのか」がわかっていないこともある ・子どもたちが学べる環境が不足している ・例大祭の担い手が不足している	・今ある良いものを守っていく体制が整っているまち ・子どもが市外へ出て学びやすく、また戻ってきたいと思えるまち ・市民が地元の良さを知り、周りに伝えているまち ・世界各地から人が訪れるまち ・歴史と文化が残り「根室市のものとして」市民に伝わっているまち
根室の住み心地 	・他都市と距離を感じる ・夏は冷涼、冬は雪が少なく過ごしやすい ・コミュニティが強い⇔閉鎖的な点もある ・子育て支援が充実している⇔病院施設やサービスが不足している	・若い世代に適した住宅やお店が必要 ・車がないと住みにくい ・食・自然が豊かで資源が豊富 ・人や車が少なく、静かで過ごしやすい	・経済を回す新しい人や考えが入ってくる、いろんな職種・働き方があるまち ・地域の個性を高めつつ、他都市とのアクセスが良いまち

次回につながる
こんなアイデア
もあげられました

- 大人が根室市について深く学ぶことができる場をつくる。
- 学んだことは子どもたちや市民に向けて発信し、次は子どもたちがガイドなどになって外の人へ根室市の魅力を伝える、などの流れを生み出せると良い。

